矢掛町人口ビジョン（改訂版）

令和３年３月

矢　　掛　　町

目次

Ⅰ　はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
Ⅱ　矢掛町の人口の現状と分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

１　人口動向分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
（１）　総人口の推移と将来推計　・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
（２）　年齢３区分別人口の推移と将来推計　・・・・・・・・・・・・・２
（３）　出生数及び死亡数の推移　・・・・・・・・・・・・・・・・・・３
（４）　転入数及び転出数の推移　・・・・・・・・・・・・・・・・・・４
（５）　総人口に与えてきた自然増減と社会増減の影響　・・・・・・・・６
（６）　年齢階級別人口移動の推移・　・・・・・・・・・・・・・・・・６
（７）　合計特殊出生率の推移　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８
（８）　未婚率の推移と結婚に対する意識　・・・・・・・・・・・・・・８

２　将来人口の推計と分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０
（１）　仮定値による人口推計シミュレーション　・・・・・・・・・・１０

３　産業と人口の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２
（１）　男女別産業人口と特化係数　・・・・・・・・・・・・・・・・１２
（２）　年齢階級別の産業人口　・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３

Ⅲ　人口の将来展望・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４

１　将来展望の基礎となる住民の意識・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４
（１）　若者の進路等に関する意識・・・　・・・・・・・・・・・・・・１４
（２）　移住・定住に関する意識　・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５
（３）　子育てに関する意識　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７

２　将来目指すべき方向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１９

３　人口の将来展望・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０

Ⅰ　はじめに

本町は、岡山県の南西部に位置し、瀬戸内海気候に属した温暖な気候と豊かな自然環境に恵まれています。また、江戸時代には参勤交代の宿場町として栄え、本陣・脇本陣が現存する文化と田園のまちです。このような恵まれた環境を持つ本町ですが、その人口は減少し続けています。

国においては、平成２６年１１月に、「我が国の急速な少子高齢化の進展に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくために、国民一人一人が夢や希望を持ち、潤いのある豊かな生活を安心して営むことができる地域社会の形成、地域社会を担う個性豊かで多様な人材の確保及び地域における魅力ある多様な就業の機会の創出を一体的に推進すること（まち・ひと・しごと創生）に関する施策を総合的かつ計画的に実施すること」を目的に「まち・ひと・しごと創生法」が制定されました。また、同年１２月に、人口の現状と将来の展望を提示する「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び、今後５か年の目標や施策の基本的方向を提示する「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が策定されました。

これを踏まえ、本町では、平成２７年１０月に「矢掛町人口ビジョン」及び「矢掛町しごと・ひと・まち創生総合戦略」を策定して、人口減少問題対策に取り組んできました。

また、国においては、令和元年１２月に、「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン（令和元年度改訂版）及び「第２期まち・ひと・しごと創生総合戦略」が策定されました。

このたび、本町の第２期総合戦略を策定するにあたり、状況変化等を踏まえ、人口ビジョンを改定します。

Ⅱ　矢掛町の人口の現状と分析

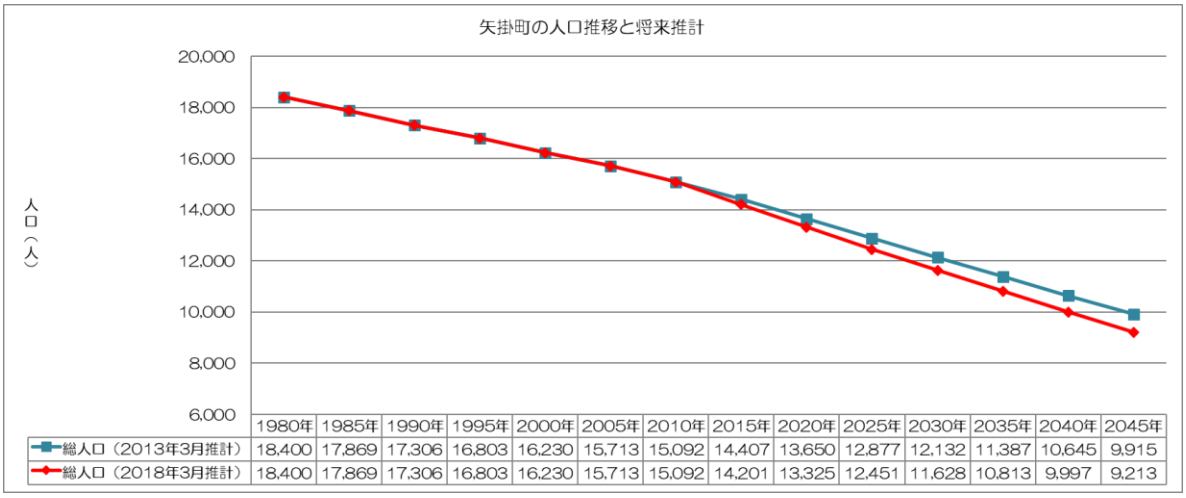
１．　人口動向分析

（１）　総人口の推移と将来推計

国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口」（以下、「地域別将来推計人口」という。）によると、本町の人口は、１９８０年には１８，４００人であったが、人口は毎年減少し続けており、２０４５年には９，２１３人まで減少するとされている。これは６５年間で約５０パーセント以上の減少が予測されていることになる。

日本の総人口は、合計特殊出生率が人口置換水準を長い間下回りながらも、増加を続けてきたが、２００８年を境にして減少を始めた。また岡山県の人口も２００５年の約１９６万人をピークにして、減少に転じている。このように日本総人口及び岡山県総人口と比較したとき、本町は早い時期から人口減少問題が深刻化していたことがわかる。

また人口減少スピードは日本全体で今後加速度的に高まるとされている。本町では地域別将来推計人口において、２０１５～２０４５年の間に、人口は▲３５．１％と見込まれている。国の長期ビジョンでは、人口５万人以下の市町村が▲３４％、過疎地域の市町村が▲４７％と見込まれており、本町もそのとおりの減少が予想されていると言える。



	1980年	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
総人口（2013年3月推計）	18,400	17,869	17,306	16,803	16,230	15,713	15,092	14,407	13,650	12,877	12,132	11,387	10,645	9,915
総人口（2018年3月推計）	18,400	17,869	17,306	16,803	16,230	15,713	15,092	14,201	13,325	12,451	11,628	10,813	9,997	9,213

図１：【出典】総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

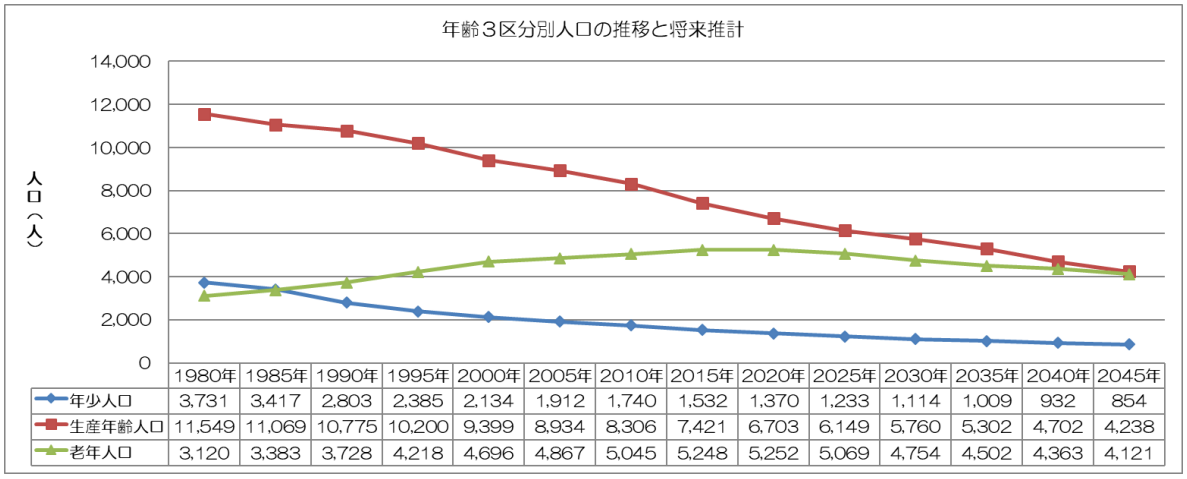
※図１の２０２０年の人口は過去の国勢調査を基にした国立社会保障・人口問題研究所の推計値。２０２１年１月１日現在の岡山県毎月流動人口調査による本町の人口は１３，２４１人であった。

（２）　年齢３区分別人口の推移と将来推計

現在まで、年少人口（１４歳以下）、生産年齢人口（１５～６４歳）の割合は減少、老年人口（６５歳以上）の割合は、増加している。総人口は減少し続ける中で、２０２５年以降、老年人口も減少に転換する。１９８５年頃に老年人口と年少人口が同じになり、その後、逆転したことがわかる。

国の長期ビジョンでは、人口減少の進み方を三段階に分けており、「第一段階」とは、若年人口は減少するが、老年人口は増加する時期、「第二段階」は、若年人口の減少が加速化

し、老年人口が維持から微減へと転じる時期、「第三段階」は、若年人口の減少が一層加速化し、老年人口も減少していく時期である。本町の場合、老年人口が維持から減少へ転じる時期が近づいており、現在は「第二段階」であると考えられる。国の長期ビジョンによると、「第一段階」では人口減少スピードはそれほど速くないが、「第二・第三段階」では、「人口急減」が待ち受けているとされている。本町では、今後、急速な人口の減少が懸念される。

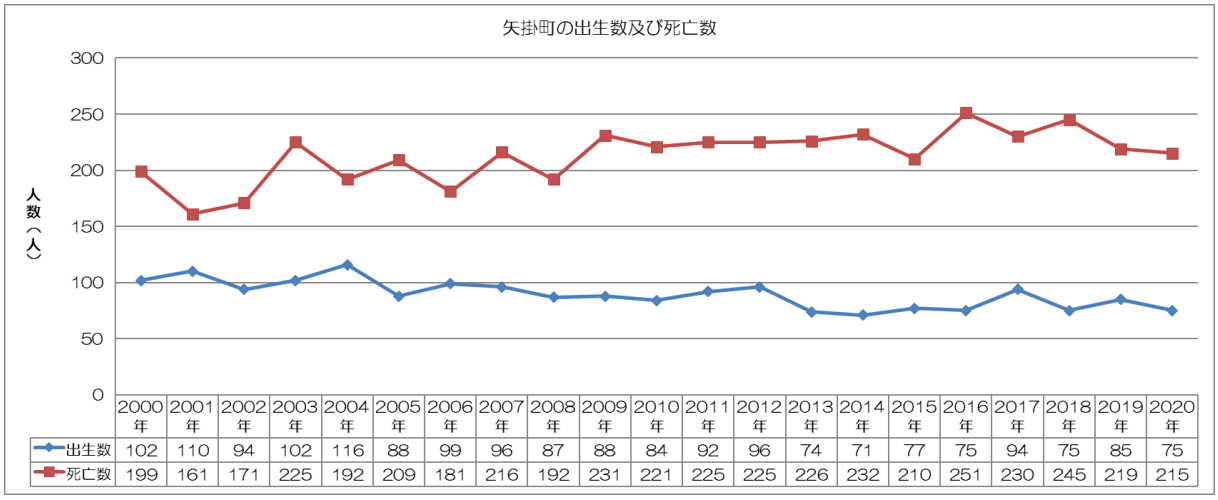


	1980年	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
年少人口	3,731	3,417	2,803	2,385	2,134	1,912	1,740	1,532	1,370	1,233	1,114	1,009	932	854
生産年齢人口	11,549	11,069	10,775	10,200	9,399	8,934	8,306	7,421	6,703	6,149	5,760	5,302	4,702	4,238
老年人口	3,120	3,383	3,728	4,218	4,696	4,867	5,045	5,248	5,252	5,069	4,754	4,502	4,363	4,121

図２：【出典】総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

（３）　出生数及び死亡数の推移

死亡数は年により変動が大きいが、全体的には出生数は減少、死亡数は増加しており、人口は「自然減」の状態である。出生数と死亡数の差は年々拡大している。２０００年には１０２人の出生があったが、２０２０年ではわずか７５人となっている。また、２０２０年の死亡数と出生数の差は１４０人であり、「自然減」だけでも大きく人口が減少していることがわかる。



	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
出生数	102	110	94	102	116	88	99	96	87	88	84	92	96	74	71	77	75	94	75	85	75
死亡数	199	161	171	225	192	209	181	216	192	231	221	225	225	226	232	210	251	230	245	219	215

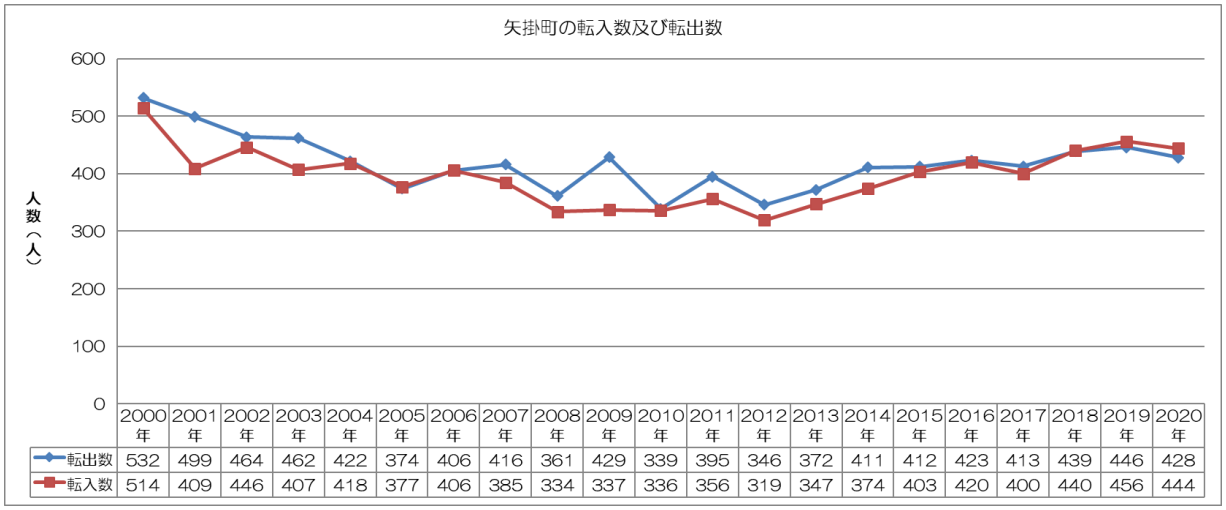
図３：【出典】総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

（４）　転入数及び転出数の推移

年によって多少の変動があるものの、全体的には転出数が転入数をやや上回り、社会減の状態が続いていたが、２０１８年からは転入者数が転出者数を上回る状態となっている。転入数及び転出数はどちらも２０１２年から緩やかに増加している。

転出数の内訳については、岡山県倉敷市、岡山県岡山市北区などの県内近隣都市への転出が目立つ。県外では近隣の広島県福山市への転出が多い。

一方で転入数の内訳については、岡山県倉敷市、広島県福山市などの都市からの転入が多い。



	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
転出数	532	499	464	462	422	374	406	416	361	429	339	395	346	372	411	412	423	413	439	446	428
転入数	514	409	446	407	418	377	406	385	334	337	336	356	319	347	374	403	420	400	440	456	444

図４：【出典】総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

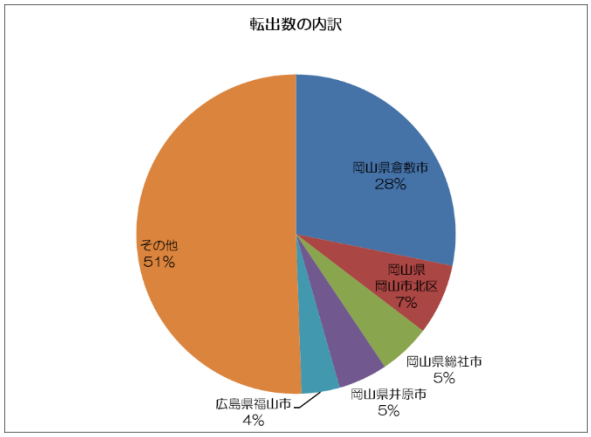
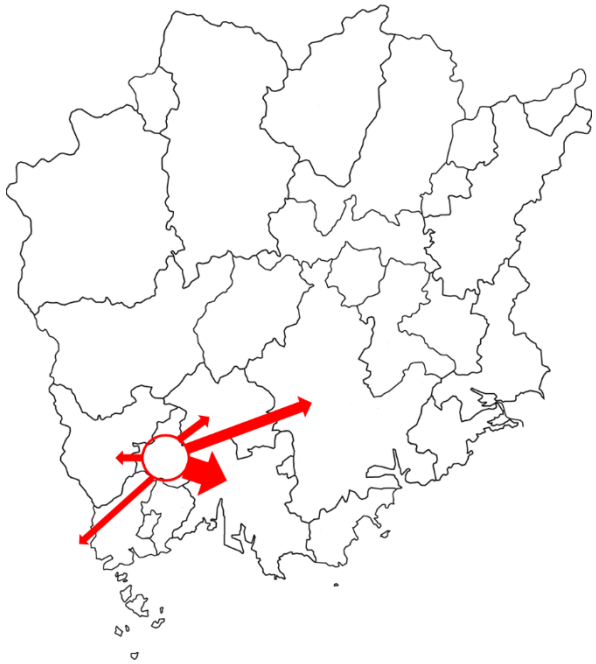
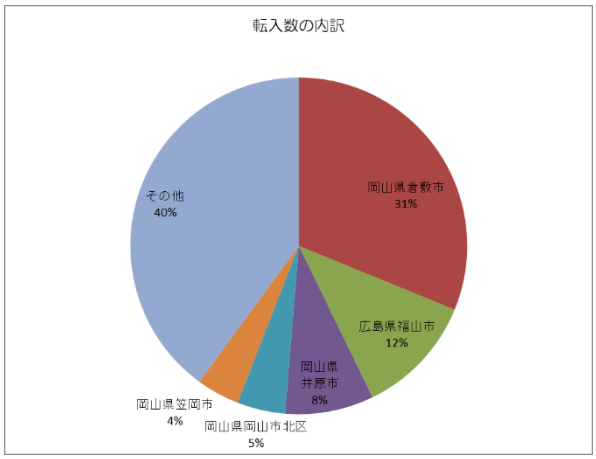


図５：【出典】総務省「住民基本台帳人口移動報告」

※2019 年





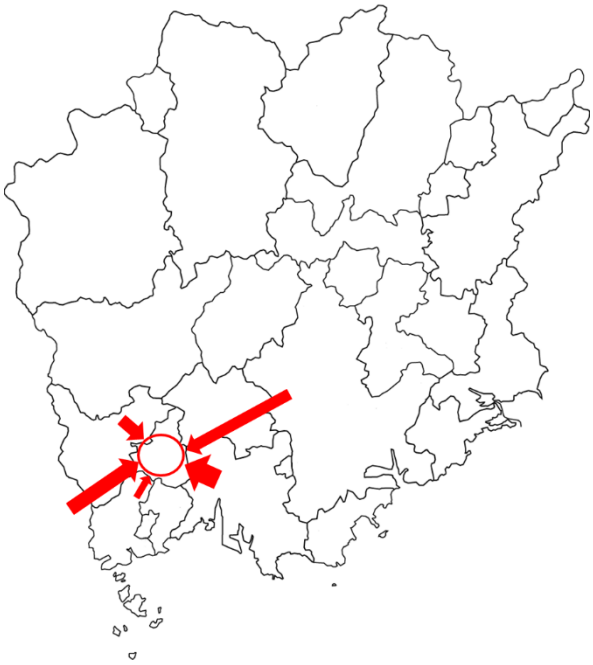


図６：【出典】総務省「住民基本台帳人口移動報告」

※2019 年

転入数の内訳のうち、特に県外からについて着目すると、隣県では広島県、関西圏では兵庫県、大阪府、関東圏では東京都、千葉県から本町への転入が多く、いずれも大都市が上位を占めることがわかる。

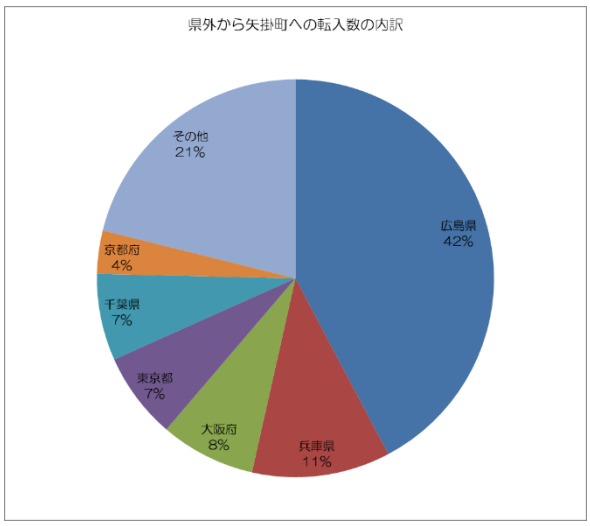


図７（左）：【出典】総務省「住民基本台帳人口移動報告」

※2019 年

図８（右）：「県外から岡山県への転入者住所地の花火図」【出典】地域経済分析システム

※2019 年

（５）　総人口に与えてきた自然増減と社会増減の影響

グラフの縦軸に自然増減、横軸に社会増減をとり、本町の総人口に与えてきた自然増減と社会増減の影響を分析する。

全体的には自然減、社会減の状態が続いていたが、２０１８年からは自然減、社会増に転じている。近年では、社会減よりも自然減が総人口に影響を与えていることがわかる。

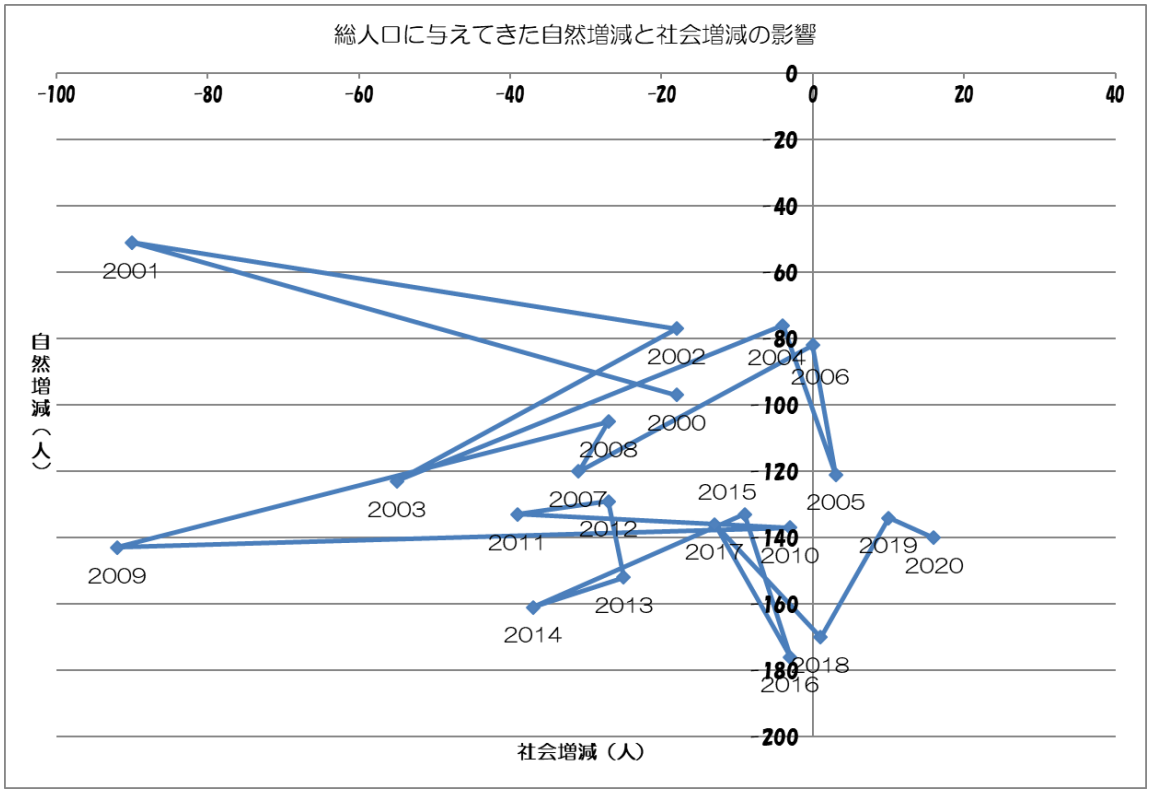


図９：【出典】総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

（６）　年齢階級別人口移動の推移

年齢階級別に人口移動の推移を見てみると、１５～１９歳から２０～２４歳のときに大きく転出超過になる傾向がわかる。これは進学、就職に伴う転出が多いためである。しかしながら、２０～２４歳から２５～２９歳のときには転入超過となっており、これは進学して町外へ転出した者が就職に伴って町内に戻ってくるためと考えられるが、この傾向は近年縮小しているようである。このことは国の長期ビジョンにおいて、指摘されており、かつては東京圏の大学に進学しても、就職時に地元に帰る動きが一定程度あったが、そうしたＵターンが減少している。

男性と女性とを比較した場合、女性の方が移動数は少ないが、全体的には男女とも同じ傾向が見られる。また、近年では５５～５９歳から６０～６４歳の年齢層にわずかではあるが、転入超過の傾向が見られる。

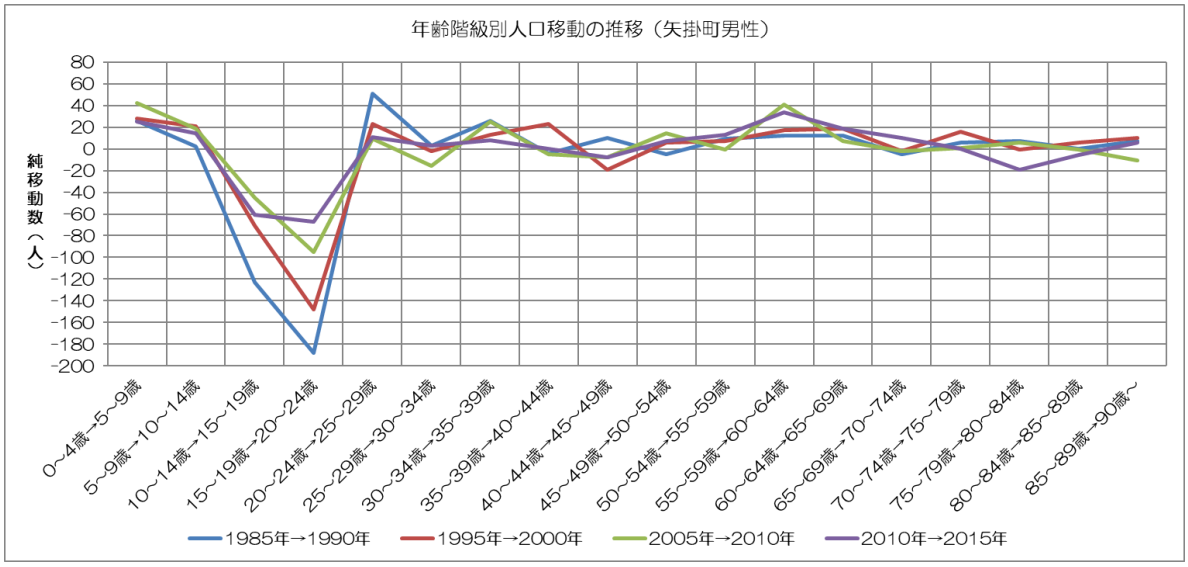


図１０：【出典】総務省「国勢調査」、総務省「住民基本台帳人口移動報告」

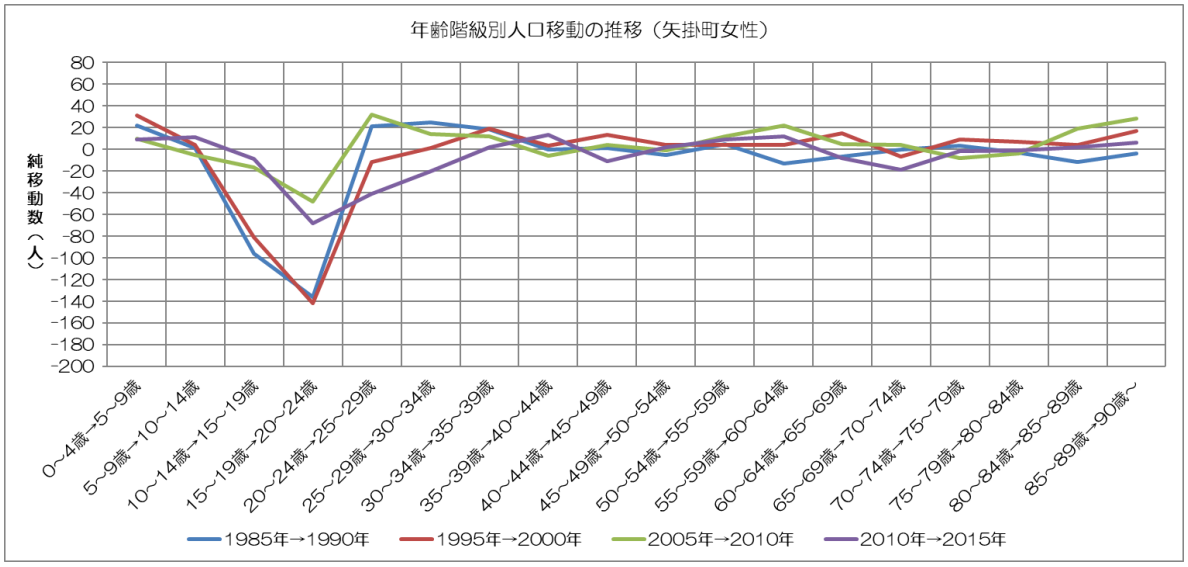
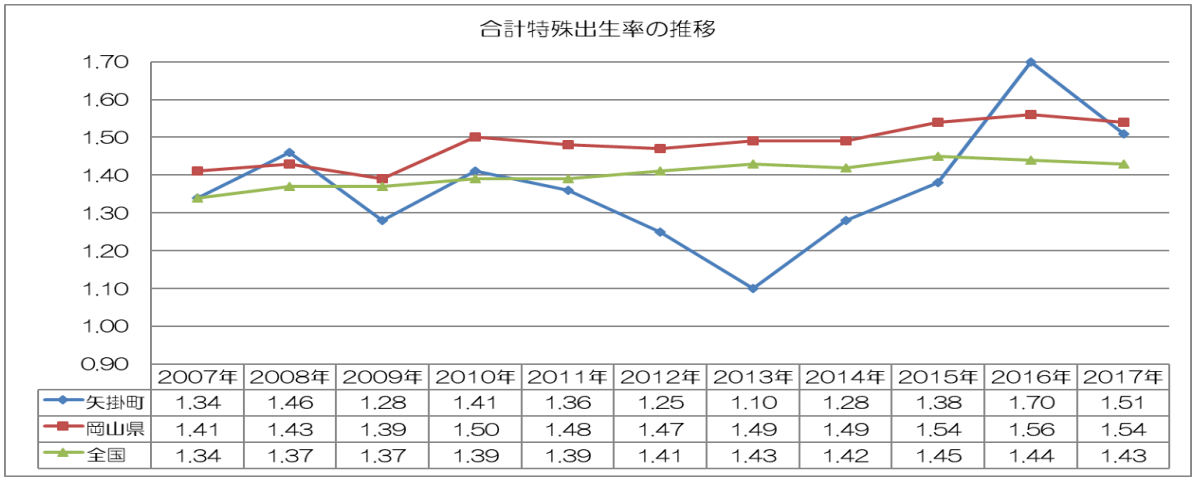


図１１：【出典】総務省「国勢調査」、総務省「住民基本台帳人口移動報告」

（７）　合計特殊出生率の推移

本町の合計特殊出生率は年によって変動は大きいものの、２０１４年からは上昇傾向である。また、２０１６年は全国、岡山県を上回っている。

※合計特殊出生率とは、１５～４９歳までの女性の年齢別出生率を合計したものであり、一人の女性が一生の間に何人の子どもを産むかを表す数値である。



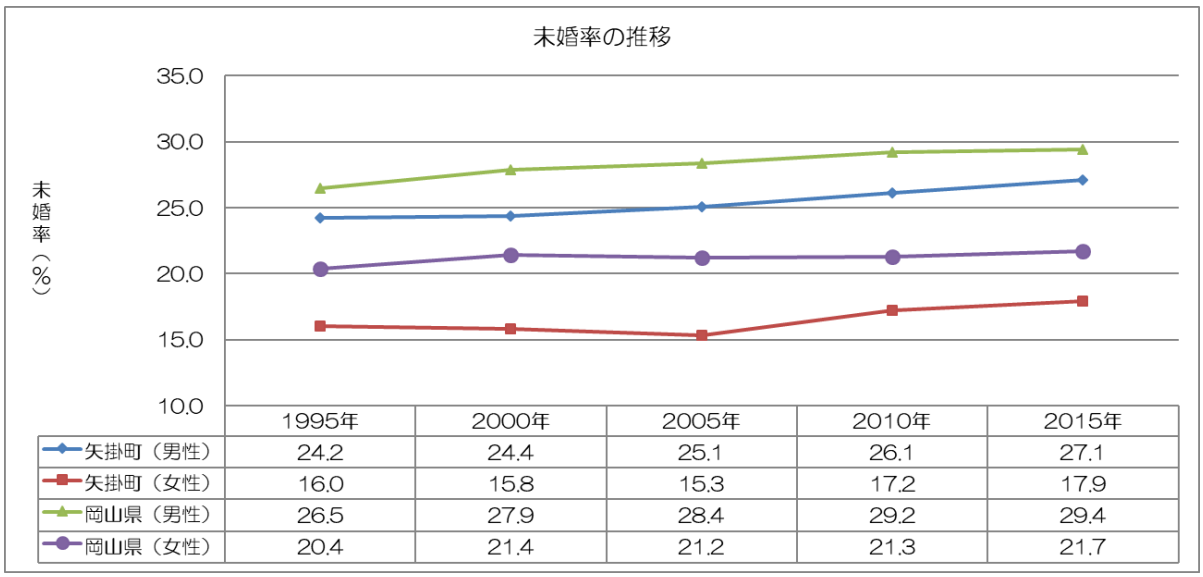
	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
矢掛町	1.34	1.46	1.28	1.41	1.36	1.25	1.10	1.28	1.38	1.70	1.51
岡山県	1.41	1.43	1.39	1.50	1.48	1.47	1.49	1.49	1.54	1.56	1.54
全国	1.34	1.37	1.37	1.39	1.39	1.41	1.43	1.42	1.45	1.44	1.43

図１２：【出典】岡山県「衛生統計年報」　※2014 年以前の矢掛町の数値は、合計特殊出生率の算出方法を変更する前の数値

（８）　未婚率の推移と結婚に対する意識

本町の未婚率は岡山県全体の未婚率と比較すると、男性、女性とも低い値で推移している。特に女性は平成２７年において、岡山県と比べて３．８％も低い値となっている。しかしながら、男性の未婚率は矢掛町、岡山県とも上昇を続けていることがわかる。

※未婚率とは、１５歳以上人口に占める未婚者数の割合である。



	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年
矢掛町（男性）	24.2	24.4	25.1	26.1	27.1
矢掛町（女性）	16.0	15.8	15.3	17.2	17.9
岡山県（男性）	26.5	27.9	28.4	29.2	29.4
岡山県（女性）	20.4	21.4	21.2	21.3	21.7

図１３：【出典】総務省「国勢調査」

上図のとおり未婚率が上昇する理由について、国立社会保障・人口問題研究所「出生動向基本調査（２０１５年)」によると、若い年齢層（１８～２４歳）では「(結婚するには)まだ若すぎる」「まだ必要性を感じない」「仕事（学業）にうちこみたい」など、結婚するための積極的な動機がないことが多く挙げられている。一方、２５～３４歳の年齢層では、「適当な相手にめぐり会わない」など結婚の条件が整わないことが多く挙げられている。ただし、この２５～３４歳の年齢層でも「自由さや気楽さを失いたくない」「必要性を感じない」という理由も多くなっている。

【出典】国立社会保障・人口問題研究所「出生動向基本調査」※2015 年

２．　将来人口の推計と分析

（１）　仮定値による人口推計シミュレーション

本町の将来人口について、仮定値を用いて試算する。地域別将来推計人口を基に、シミュレーションＡでは合計特殊出生率が２０３０年までに人口置換水準程度（２．１）まで上昇すると仮定している。シミュレーションＢではシミュレーションＡに加え、人口移動が均衡（ゼロ）で推移すると仮定している。この仮定により試算すると、シミュレーションＡでは、２０６５年に人口が８，０６３人まで減少する。シミュレーションＢでは２０６５年に９，５９７人まで減少する。それぞれの数値の詳細は図１５、１６、１７のとおりである。

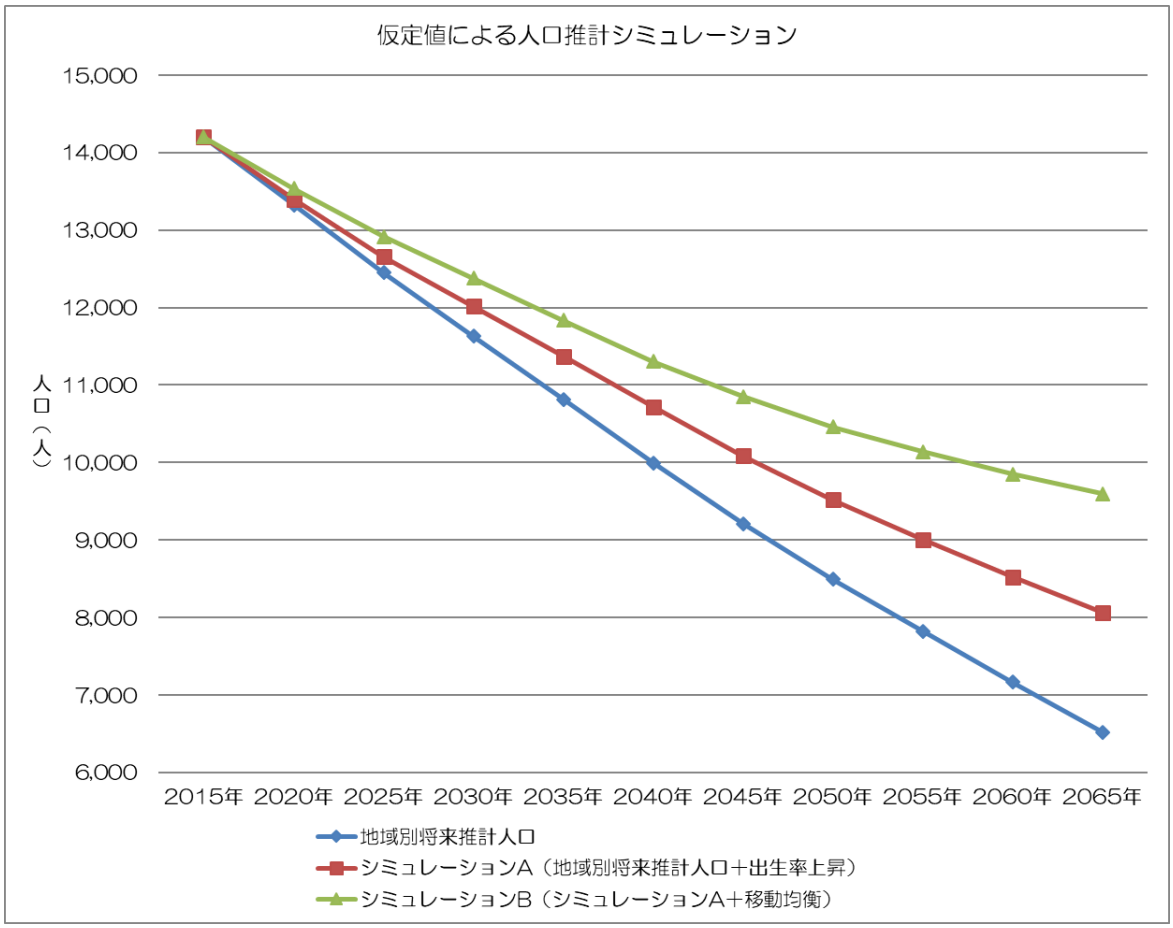


図１４：【出典】国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」を基に矢掛町作成

■地域別将来推計人口

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
総人口	14,201	13,325	12,451	11,628	10,813	9,997	9,213	8,491	7,821	7,166	6,520
年少人口	1,532	1,370	1,233	1,114	1,009	932	854	779	704	632	570
生産年齢人口	7,421	6,703	6,149	5,760	5,302	4,702	4,238	3,881	3,596	3,311	2,986
老年人口	5,248	5,252	5,069	4,754	4,502	4,363	4,121	3,831	3,521	3,223	2,964
	～2015年	～2020年	～2025年	～2030年	～2035年	～2040年	～2045年	～2050年	～2055年	～2060年	～2065年
合計特殊出生率	1.38	1.38	1.37	1.37	1.37	1.38	1.39	1.39	1.39	1.39	1.39
出生数		386	333	314	285	259	238	214	191	171	157
死亡数		-1,145	-1,136	-1,093	-1,083	-1,076	-999	-915	-840	-808	-787
移動数		-117	-71	-44	-17	1	-23	-21	-21	-18	-16
合計		-876	-874	-823	-815	-816	-784	-722	-670	-655	-646

図１５：【出典】国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」を基に矢掛町作成

■シミュレーションＡ（地域別将来推計人口＋出生率上昇）

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
総人口	14,201	13,396	12,656	12,013	11,370	10,716	10,088	9,515	9,005	8,523	8,063
年少人口	1,532	1,443	1,437	1,499	1,493	1,464	1,394	1,336	1,279	1,230	1,199
生産年齢人口	7,421	6,702	6,150	5,759	5,376	4,889	4,573	4,348	4,205	4,070	3,900
老年人口	5,248	5,251	5,069	4,755	4,501	4,363	4,121	3,831	3,521	3,223	2,964
	～2015年	～2020年	～2025年	～2030年	～2035年	～2040年	～2045年	～2050年	～2055年	～2060年	～2065年
合計特殊出生率	1.38	1.64	1.87	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10
出生数		457	460	479	443	426	412	389	373	363	362
死亡数		-1,145	-1,136	-1,093	-1,083	-1,077	-999	-917	-841	-809	-789
移動数		-117	-64	-29	-3	-3	-41	-45	-42	-36	-33
合計		-805	-740	-643	-643	-654	-628	-573	-510	-482	-460

図１６：【出典】国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」を基に矢掛町作成

■シミュレーションＢ（シミュレーションＡ＋移動均衡）

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
総人口	14,201	13,539	12,917	12,381	11,836	11,302	10,850	10,459	10,137	9,851	9,597
年少人口	1,532	1,416	1,418	1,545	1,604	1,639	1,622	1,598	1,563	1,534	1,535
生産年齢人口	7,421	6,864	6,435	6,106	5,802	5,427	5,250	5,192	5,215	5,238	5,135
老年人口	5,248	5,259	5,064	4,730	4,430	4,236	3,978	3,669	3,359	3,079	2,927
	～2015年	～2020年	～2025年	～2030年	～2035年	～2040年	～2045年	～2050年	～2055年	～2060年	～2065年
合計特殊出生率	1.38	1.64	1.87	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10
出生数		483	507	554	541	545	539	518	508	509	519
死亡数		-1,145	-1,129	-1,090	-1,086	-1,079	-991	-909	-830	-795	-773
移動数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		-662	-622	-536	-545	-534	-452	-391	-322	-286	-254

図１７：【出典】国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」を基に矢掛町作成

３．　産業と人口の状況

（１）　男女別産業人口と特化係数

本町の産業人口を男女別に見ると、男性では「製造業」への就業が最も多く、次いで「建設業」「卸売業、小売業」となっている。女性では「医療、福祉」への就業が最も多く、次いで「製造業」「卸売業、小売業」となっている。

また特化係数を見ると、男性は「鉱業、採石業、砂利採取業」、女性は「農業、林業」が最も高い。その他、男性は「農業、林業」「複合サービス事業」「製造業」「建設業」、女性は「製造業」「複合サービス事業」「建設業」「医療、福祉」などの特化係数が１を超える産業となっている。

※特化係数は、地域のある産業が、全国と比してどれだけ特化しているかを示す指標である。１以上であれば、全国と比してその産業に特化していることになる。Ｘ産業の特化係数＝本町Ｘ産業就業者比率／全国Ｘ産業就業者比率

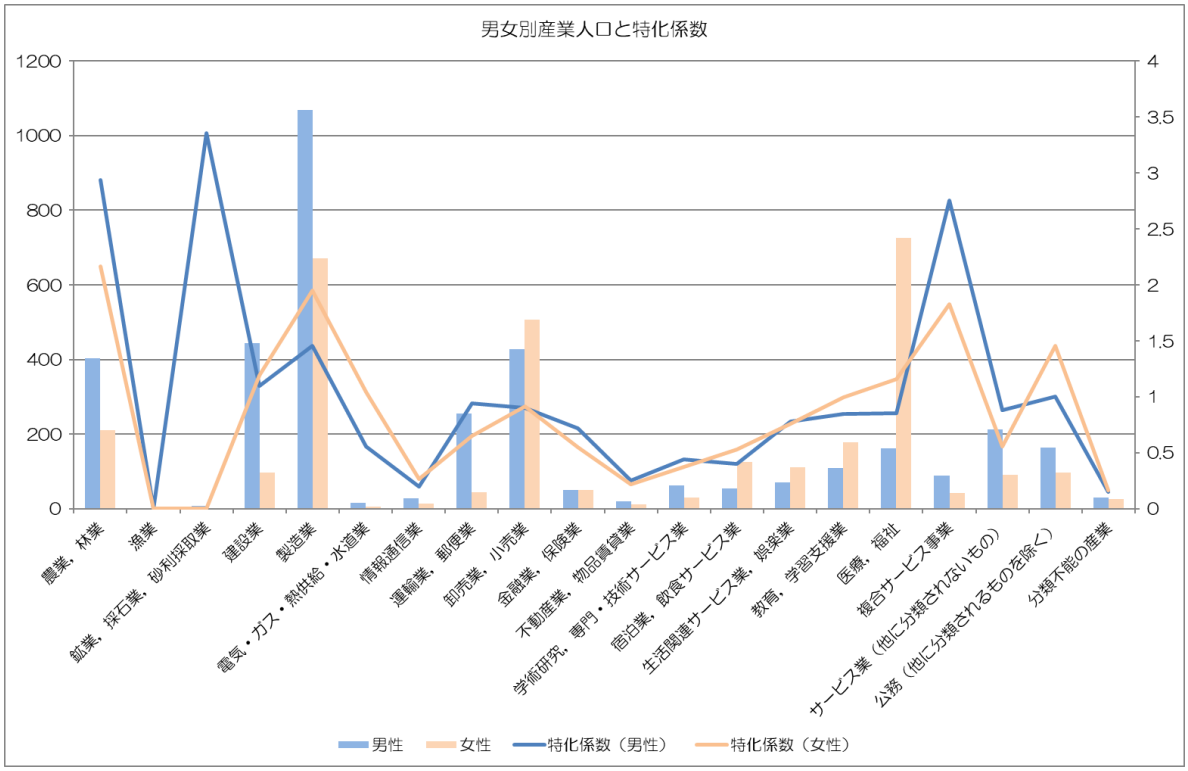
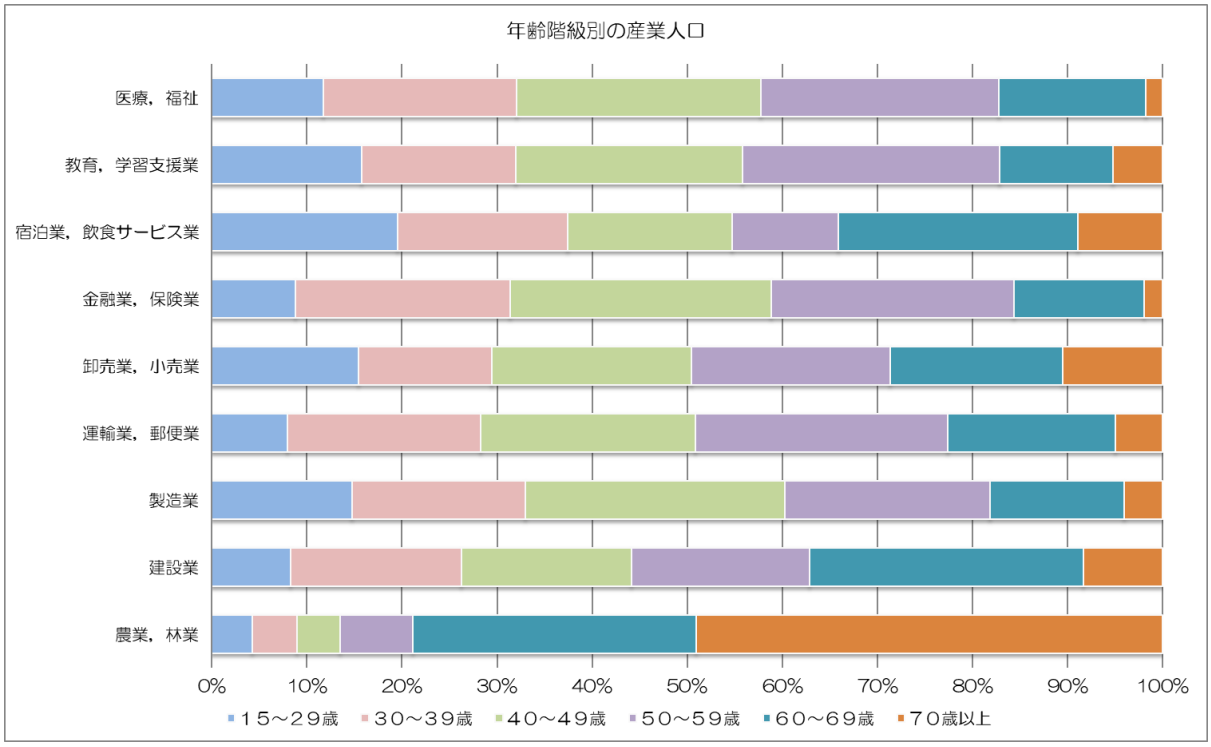


図１８：【出典】総務省「国勢調査」※2015 年

（２）　年齢階級別の産業人口

本町の年齢階級別の産業人口を見ると、「農業、林業」については６０歳以上の人口が全体の７８％以上を占めており、他の産業に比べて、極端に高齢化が進んでいることがわかる。

また「医療、福祉」、「金融業、保険業」「製造業」は比較的バランスが良い年齢構成となっているが、「建設業」については５０歳以上の人口が５０％以上を占めており、全体的には本町の高齢化の現状がうかがえる。



	農業，林業	建設業	製造業	運輸業，郵便業	卸売業，小売業	金融業，保険業	宿泊業，飲食サービス業	教育，学習支援業	医療，福祉
１５～２９歳	26	45	257	24	144	9	35	45	104
３０～３９歳	29	97	316	61	131	23	32	46	180
４０～４９歳	28	97	475	68	196	28	31	68	228
５０～５９歳	47	101	375	80	195	26	20	77	222
６０～６９歳	183	156	245	53	170	14	45	34	137
７０歳以上	301	45	71	15	98	2	16	15	16
合計	614	541	1739	301	934	102	179	285	887

図１９：【出典】総務省「国勢調査」※2015 年

Ⅲ　人口の将来展望

１．　将来展望の基礎となる住民の意識

（１）　若者の進路等に関する意識

矢掛中学校、小北中学校、矢掛高等学校の生徒に対して実施した「まちづくりアンケート」によると、「将来働きたい場所」について、「矢掛町内」と答えた割合はわずか９．６％にとどまり、「矢掛町から離れて」と答えた割合は、県内と県外を合計して６４．５％となった。また「矢掛町から離れて」と答えた者に「地元以外で働きたい理由」を確認したところ、「自分の視野を広げたい」が４１．６％で最も多く、次いで「地元には、自分にあう魅力のある会社、職種が少ない」が３０．２％となっている。若者の働く会社、職種が少ないことが大きな問題となっていることがわかる。

※矢掛町「中学生・高校生まちづくりアンケート」

①調査方法：配布によるアンケート　　②対象者：矢掛中学校、小北中学校、矢掛高等学校の生徒

③客体数：６７１人　　④回収数：６０３人

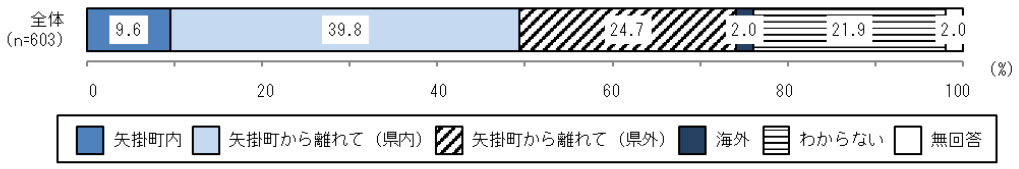


図２０：【出典】矢掛町「中学生・高校生まちづくりアンケート(2020.2)」

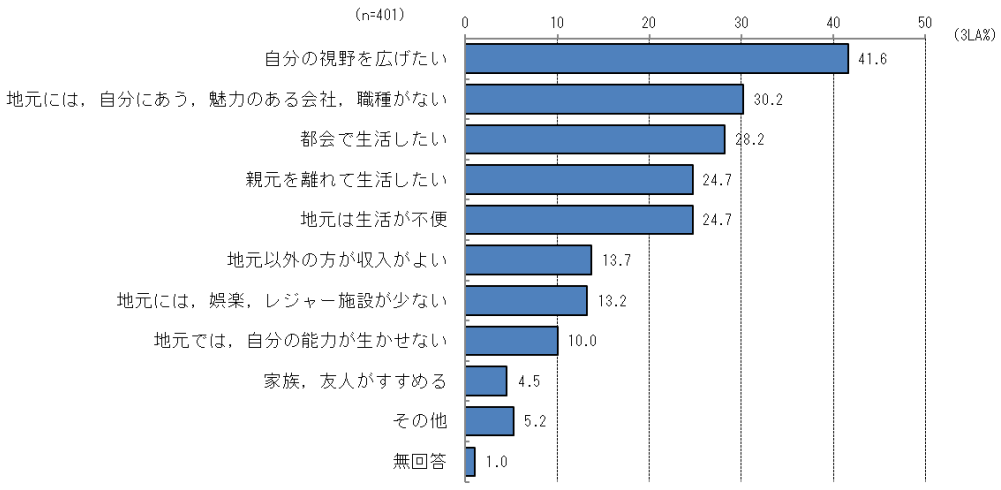


図２１：【出典】矢掛町「中学生・高校生まちづくりアンケート(2020.2)」

（２）　移住・定住に関する意識

（ア）　東京都在住者の移住の意向

「東京都在住者の今後の暮らしに関する意向調査」によると、今後東京都から移住する予定または移住を検討したい（「今後１年」「今後５年をめど」「今後１０年をめど」「具体的な時期は決まっていないが検討したい」の合計）と回答した人の割合は回答者全体の３８．４％であった。年齢別に見ると、男性では１０・２０代が最もその割合が高く、次いで４０代が高くなっている。一方、女性では１０代・２０代の割合が最も高く、次いで３０代が高くなっている。男女とも１０代・２０代の割合が比較的高いことが特徴である。

※東京都在住者の今後の暮らしに関する意向調査（内閣官房）

①調査方法：インターネットによる調査　　②対象者：東京都在住　１８～６９歳男女　１，４４０人

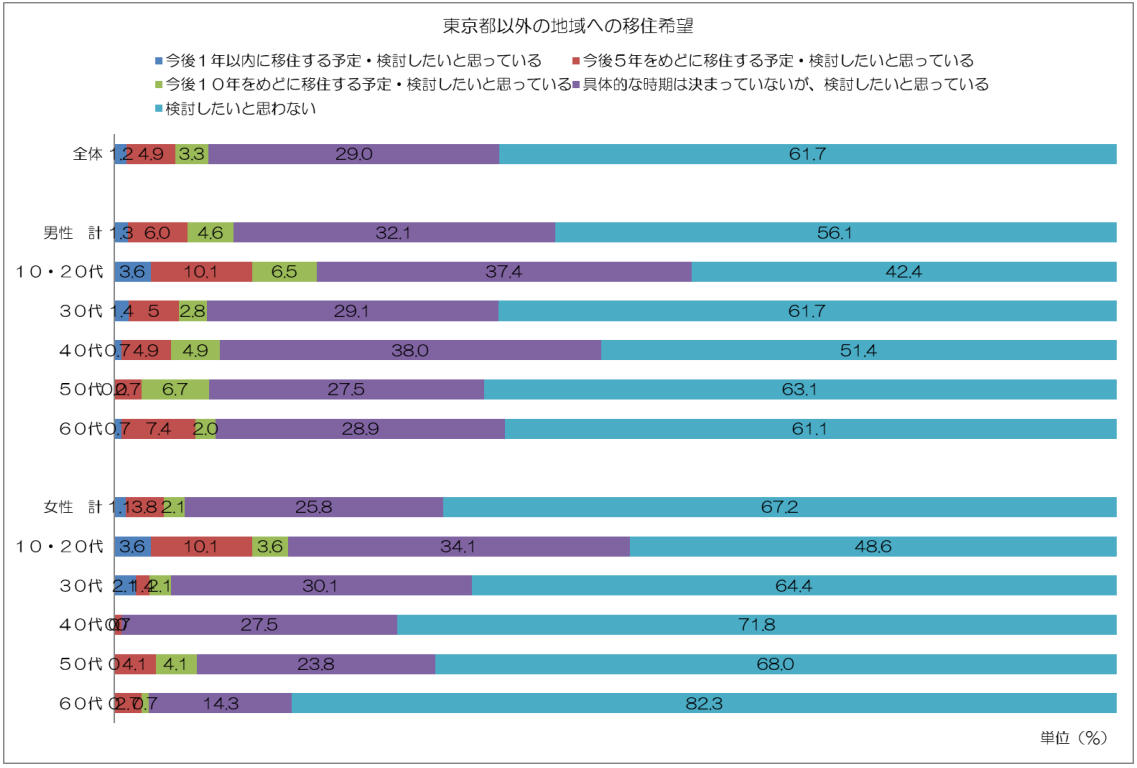


図２２：【出典】内閣官房「東京都在住者の今後の暮らしに関する調査(2018.10)」

（イ）　移住を検討する上でのポイント

「東京都在住者の今後の暮らしに関する意向調査」で、今後東京都から移住する予定または移住を検討したいと回答した人に対して、「移住を考える上で重視すること」を調査したところ、「生活コスト」「仕事」「買い物の利便性」「交通の利便性」「医療、福祉施設の充実」を挙げた人が多く、移住者を増加させるためには、このようなニーズに対応していくことが必要となる。

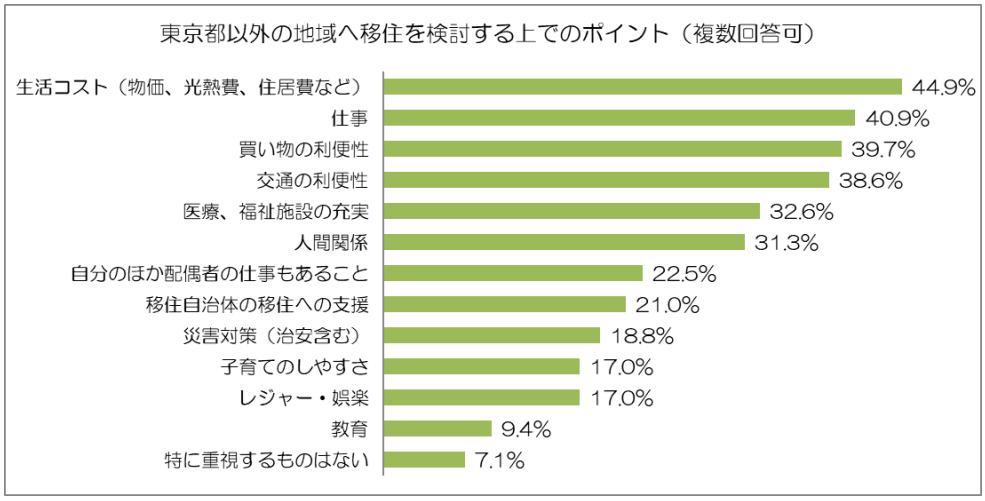


図２３：【出典】内閣官房「東京都在住者の今後の暮らしに関する調査(2018.10)」

（ウ）　矢掛町在住者「できれば転居または転出したい」または「転居または転出したい」と思う理由

「道路事情や交通の便が悪い」が５８．１％で最も高くなっている。次いで「買い物など日常生活が不便」が４１．９％、「地域行事や近所付き合いが面倒」が３８．７％となっている。

※矢掛町「まちづくりアンケート」

①調査方法：郵送によるアンケート　②対象者：矢掛町在住の１８歳以上の男女　③客体数：１，０００人

④回収数４０９人のうち「できれば転居または転出したい」または「転居または転出したい」と回答した３１人

（複数回答可）

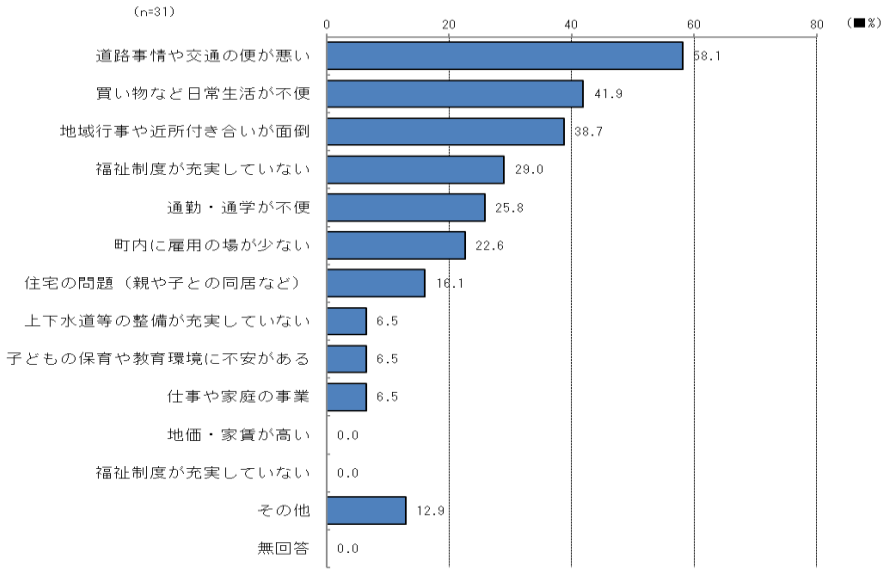


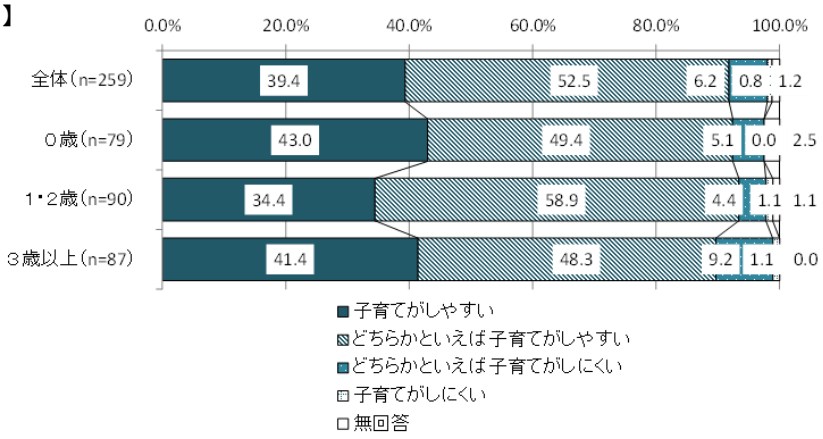
図２４：【出典】矢掛町「まちづくりアンケート(2020.3)」

（３）　子育てに関する意識

（ア）　子育てのしやすさ

町内の小学校就学前の児童のいる世帯に対して実施した「矢掛町子ども・子育て支援ニーズ調査」によると、本町の子育てのしやすさの評価について、「どちらかといえば子育てがしやすい」と回答した人の割合が５２．５％と最も高くなっている。次いで「子育てがしやすい」（３９．４％）、「どちらかといえば子育てがしにくい」（６．２％）の順になっている。子どもの年齢別に見ると、「０歳」で「子育てがしやすい」と回答した人の割合が４３．０％と最も高くなっている。地区別に見ると、「子育てがしやすい」と回答した人の割合が、「山田」で５２．６％と最も高くなっている。次いで「小田」（４５．７％）、「矢掛」（４２．４％）の順になっている。

【子どもの年齢別】



【小学校区別】

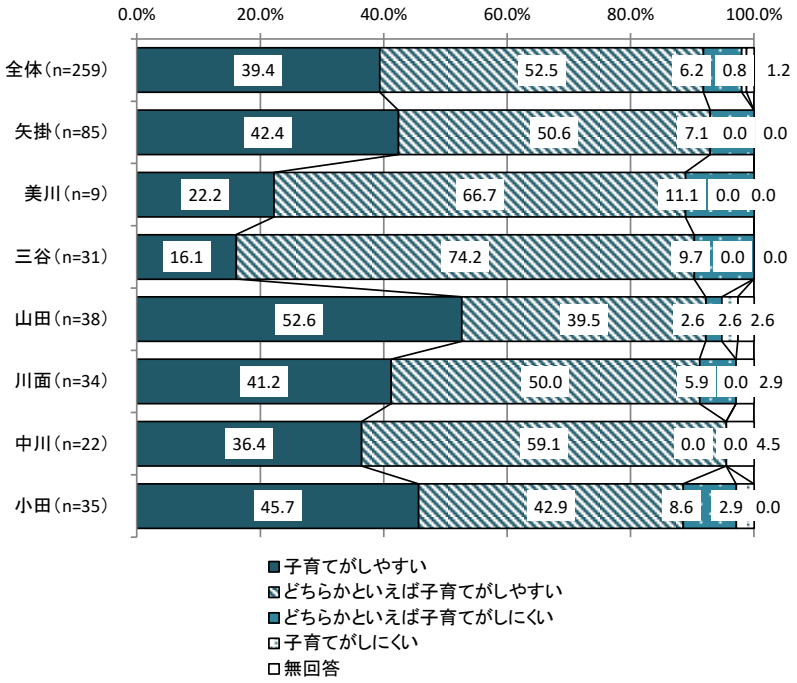


図２５：【出典】矢掛町「矢掛町子ども・子育て支援ニーズ調査(2018.11)」

（イ）　子育てに関する悩み

「矢掛町子ども・子育て支援ニーズ調査」によると、子育てに関する悩みの内容について、「子どもの病気や発育・発達に関すること」と回答した人の割合が３９．０％と最も高くなっている。次いで「子どもを叱りすぎているような気がすること」（３２．０％）、「子どもとの時間を十分とれないこと」（２９．７％）の順になっている。

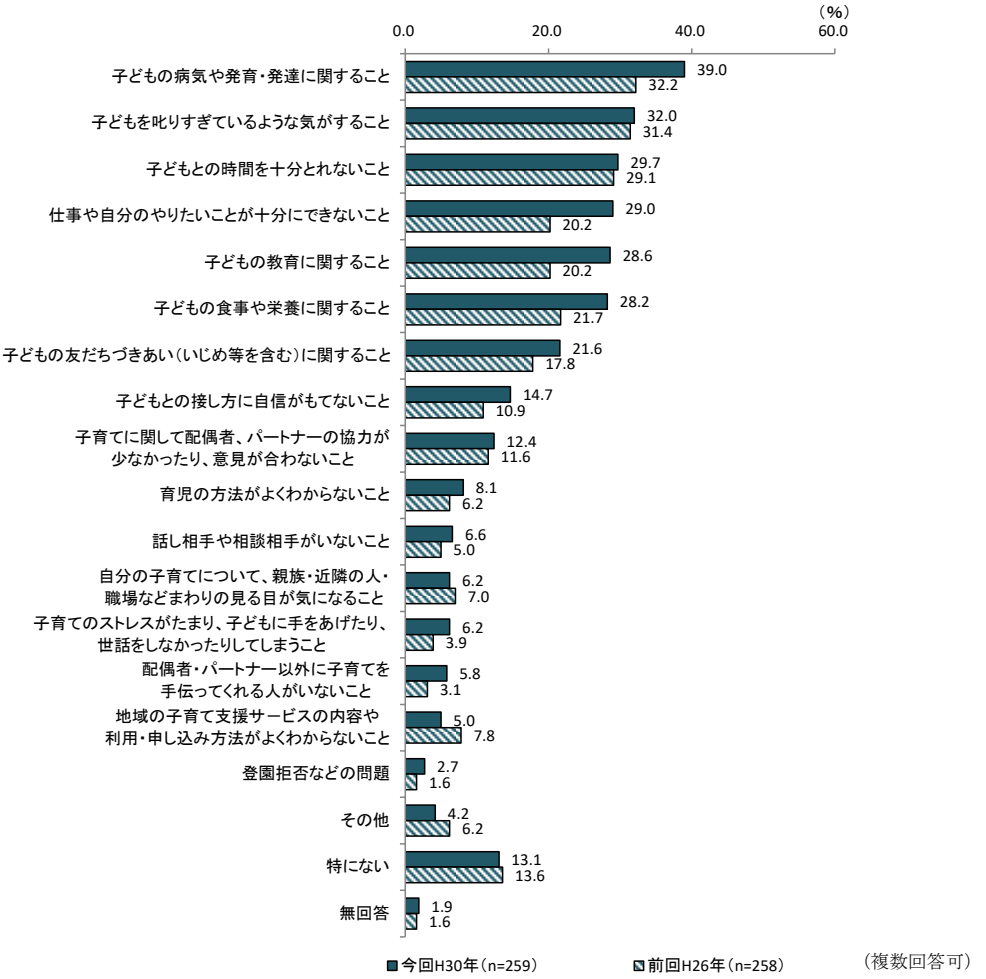


図２６：【出典】矢掛町「矢掛町子ども・子育て支援ニーズ調査(2018.11)」

（ウ）　子育てに関する不安・負担

「矢掛町子ども子育てニーズ調査」によると、子育てに関する不安・負担度について、「なんとなく不安や負担を感じる」と回答した人の割合が３７．５％と最も高くなっている。次いで「あまり不安や負担などは感じない」（２５．５％）、「なんとも言えない」（２２．８％）の順になっている。

子どもの年齢別に見ると、「なんとなく不安や負担を感じる」と回答した人の割合は「１・２歳」（２８．９％）で最も低く、「０歳」（４４．３％）で最も高くなっている。

【子どもの年齢別】

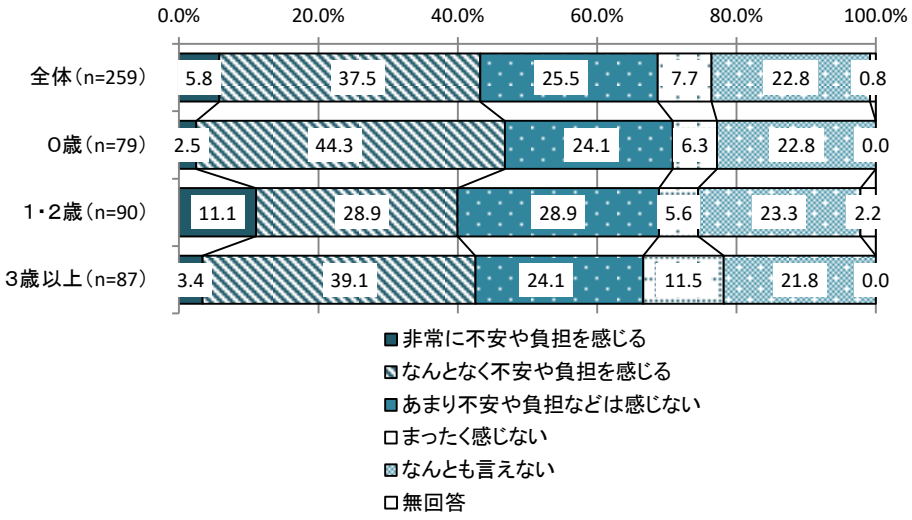


図２７：【出典】矢掛町「矢掛町子ども・子育て支援ニーズ調査(2018.11)」

※矢掛町子ども・子育て支援ニーズ調査

①調査方法：郵送によるアンケート　②対象者：小学校就学前の児童のいる世帯

③客体数：４１９人　④回収数：２５９人

２．　将来目指すべき方向

（１）雇用創出と若い世代が住み続けられる魅力あるまちづくり

アンケート結果から本町に雇用が少ないことが大きな課題となっていることがわかる。町内に安定した良質な雇用を創出することで、若い世代が町内で就職でき、定住人口の増加につなげることができる。

（２）生活利便性の向上と安全なまちづくりによる移住・定住人口の増加

近年では、地方への移住希望が高まってきており、都市圏の若い世代の移住希望が多い。このような移住希望者に本町を選択してもらうために、移住希望者のニーズに応える環境をつくり、地震や台風などの災害リスクが低いという強みを活かした安全なまちづくりを行う。

（３）結婚・出産・子育ての希望の実現

本町に安心して結婚・出産・子育てができる環境をつくり出し、人口の自然減に歯止めをかける。アンケート結果から本町は比較的子育てがしやすい環境であると言えるが、一方で、子育てに関する悩みや不安は多く、これを少しでも解消していくことが出生率の向上につながる。

３．　人口の将来展望

合計特殊出生率が２０６０年まで徐々に上昇していくと仮定する。また人口移動については、本町の転入促進、転出抑制の施策により、すべての年齢階級において、純移動率が一定程度上昇したと仮定する。この仮定により本町の人口の長期的な見通しを試算すると、２０６０年に約９，５００人程度の人口が確保されることになる。

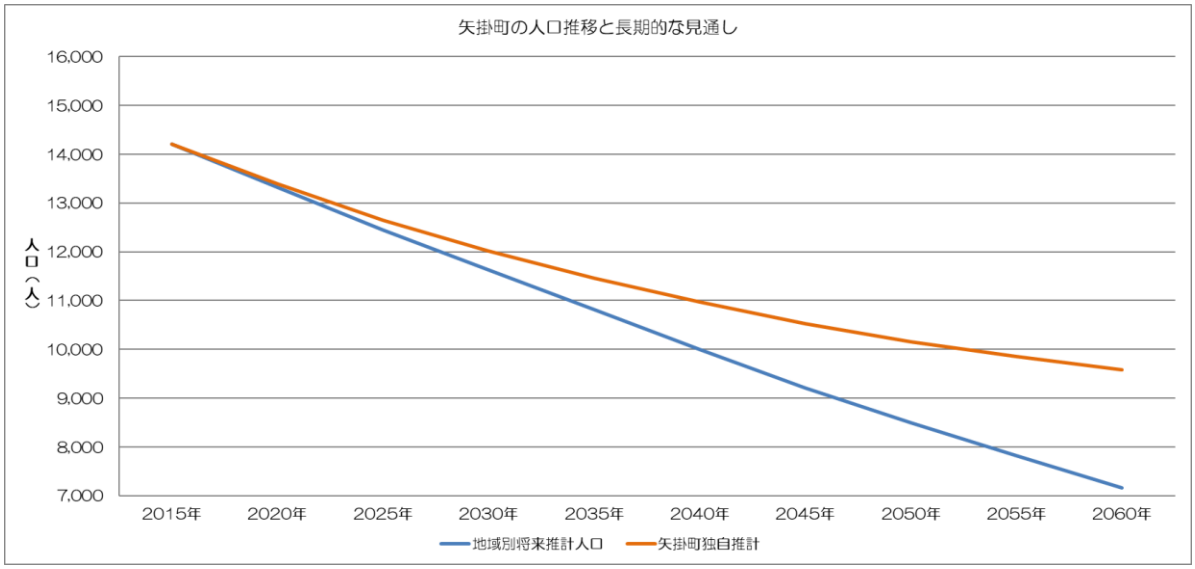


図２８：【出典】国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」を基に矢掛町作成

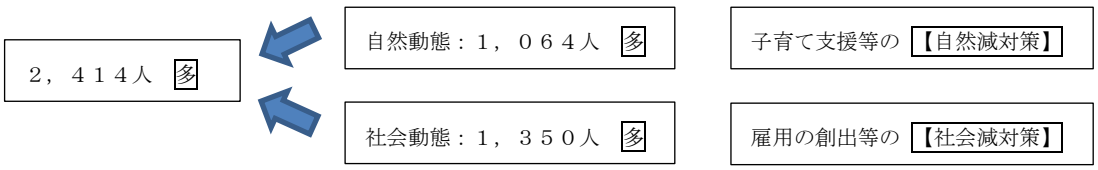
■地域別将来推計人口

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総人口	14,201	13,325	12,451	11,628	10,813	9,997	9,213	8,491	7,821	7,166

■矢掛町独自推計

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総人口	14,201	13,386	12,651	12,022	11,463	10,964	10,523	10,153	9,854	9,580

「地域別将来推計人口」と「矢掛町独自推計」を比較すると、２０６０年に総人口で、２，４１４人多くなっている。このうち１，０６４人が自然動態によるもの、１，３５０人が社会動態によるものである。各種施策を実施することにより、人口の自然動態、社会動態の両方の視点から、人口減少の抑制を目指す。



＜主な自然減対策＞
・結婚支援　… カップリングイベント・セミナーの開催、結婚祝金支給事業、
　　結婚新生活支援事業　等
・子育て支援 … 放課後児童健全育成事業、子ども医療費助成事業　等

＜主な社会減対策＞
・積極的な企業誘致の推進 … 企業立地優遇制度の活用　等
・矢掛町観光の魅力発信　… 道の駅の活用、伝統的建造物群保存地区の保存・活用、
　　賑わい創出事業の推進　等

■矢掛町独自推計の仮定値

【自然動態】
○合計特殊出生率の仮定値

	～2015年	～2020年	～2025年	～2030年	～2035年	～2040年	～2045年	～2050年	～2055年	～2060年
合計特殊出生率	1.38	1.51	1.61	1.68	1.75	1.82	1.89	1.96	2.03	2.07

【社会動態】
○地域別将来推計人口で設定されている純移動率が、すべての年齢階級において一定程度上昇すると仮定
～２０２０年　…　純移動率１割上昇
～２０２５年　…　純移動率２割上昇
～２０３０年　…　純移動率３割上昇
～２０３１年　…　純移動率４割上昇
２０３５年以降…　純移動率５割上昇

矢掛町人口ビジョン（改訂版）

令和３年３月作成

岡山県矢掛町

〒714-1297 岡山県小田郡矢掛町矢掛 3018 番地

TEL:0866-82-1057　FAX:0866-82-1454

URL：http://www.town.yakage.okayama.jp/index.html